鳥丸資慶家集

下

高梨素子編

古典文庫

烏丸資慶家集

下

高梨素子編

古典文庫

古典文庫第五四一冊

平成三年十二月二十五日印刷発行　非売品

烏丸資慶家集　下

編者　高梨素子

発行者　吉田幸一

印刷者　白橋印刷所

発行所　114　東京都北区西ケ原三ノ三四ノ一二　古典文庫
電話(三九一〇)二七一七
振替口座東京九・一四五九七番

© KOTEN BUNKO, 1991. Printed in Japan

目　次（下冊）

三　『権大納言資慶卿詠』（資料歌稿）国立歴史民俗博物館蔵高松宮本……三
四　『秀　葉　集』（別本）宮城県図書館（他三書不載歌抄出）……一四九
五　『烏丸資慶家集』解説　髙梨　素子…一六七
　烏丸資慶家集について……一六九
　烏丸資慶について……二三九
　資慶年表……二九一
六　烏丸資慶家集索引……三二七

此为试读,需要完整PDF请访问: www.erton

権大納言資慶卿詠

国立歴史民俗博物館蔵高松宮本

凡　例

一、漢字・仮名の別、仮名遣い、清濁は原文通り。漢字・仮名は原則として通行字体に改めた。

二、歌頭に歌番号を付した。併記のゴチック番号は奏覧本の歌番号であり、０は「ナシ」の意味で用いた。歌の異同大の場合は（　）を付した。

三、歌に付された傍記や見せ消ちは、添削を示す場合があると思われるので、全てそのままの形で翻刻した。題、会名、催行日については訂正結果に従った。

四、底本446番「いまめして」を他本により「いましめて」と校訂した。

五、400番、443番は細字書き入れ歌である。

暁更鶏　万治元、二、廿二、水無瀬殿御法楽

1 815 をのかねに夢ちおとろくあかつきのとりあへす明る春のみしか夜

早梅　聖廟御法楽、二月

2 592 冬こもり思ひもかけぬ雪間こそいとゝあはれとにほふ梅かゝ

樵夫　明暦二、十二、廿四、御月次

3 841 あはれ也国に杖つくとしたけてたきゝおもけにかへる山人

路卯花　万治元、二、廿五、聖廟御法楽

4 244 ふりかくす雪とみなから卯花の山ちをわけてさらにとはゝや

帰鴈　明暦二、七、廿四、御月次

5 122 山のはになきて今はとゆくかりの名残はこれもあはれならすや

夏草　同

6 296 かる人も夏のゝくさや夕つゆにすさめむ花の秋をまつらん

款冬

7
210
青葉そひさくらちりしく春雨にをのれさき匂ふ庭の山吹

逢恋

8
685
こえてまたはてなきものをわか恋のかきりといひしあふさかの関

款冬露　承応四、三、廿四、御月次

9
209
おらてみむいさめし萩の枝秋のつゆさなから思ひいての山ふき

暁千鳥　明暦三、二、廿二、水無瀬殿御法楽

10
546
河風も明かたさむみをのかつま思ひかねてやちとりなくらむ

森月　同、二、廿五、聖廟御法楽

11
424
あき風に光をちらす花かとも森の木のまの月をこそみめ

遊糸　明暦三、二、廿四、御月次

12
202
いつくより又くり出て春風にたえてのゝちもあそふ遊糸

寄傀儡恋　同

13
689
たひ衣ひもゆふくれのかり枕むすひもとめぬ契りをやまつ

14
690
もろともに契りもをかぬ夕つゆに一夜はしほるさゝのかりふし

月　御月次

15
408
山のはも忘れてそみる雲つきてゆくことおそきよはの月かけ

不逢恋　同

16
657
くるしとも思ふはかりやいひてまし岩木ならねはあはれしるやと

盧橘薫枕　同

17
270
手枕のしたにかよひてさめはてぬ夢のうちよりにほふたち花

18
271
かほりきぬよるの雨きく手枕に花さきそむるのきの立花

山家客来　同

19
786
とふ人をしはのいほりのしはしともいひなくさめむ松の風かは

亀万年友　明暦三年正月十九日御会始、公宴

20
939
万代をみいけのしまにすむかめのうへなる山と君に契りて

はつ秋風は　明暦二年十一、廿四、御月次

21
341
おきの葉にはつあき風はこゑたてつ虫のねいそけのへの夕露

待恋　明暦二、十、廿四、御月次

22
673
とはしともさためかねつゝなかき夜に待はくるしきあまのうけなは

江上霞　承応十首

23
32
ちりうせぬたねとこそみれ玉つしまかすむ入江の松のことの葉

野残雪

24
62
はつ草のうらめつらしき色そひてすそのに残る去年のしら雪

夕落花

25
0
ちりそめてくれゆく花のかけにこそ日かけにつかめはるのともし火

湖上月

26
436
かゝみ山みかくゆふへのあき風にかねてそみえしなみの上の月

浦千鳥

27
547
つまやとふあまの衣のうらちとりなれもよさむの波にしほれて

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertor

寄水恋

28 632 みしかけも中〳〵つらし山の井のむすはぬ水のあさき契りに

遠山松

29 802 霜の後のみとりはそれとあらはれぬ松ともわかぬをちのたかねに

野径篠

30 795 かれはてぬ色しもさむしあけまきのしもふみしほるのへのさゝ原

旅宿

31 876 あらし吹すゝのみ山のかり枕月もみやこのともとやはみる

不逢恋　明暦三年五月十三日御当座、公宴

32 651 さりともとたのみをかけて玉のをのなかきつらさを猶やうらみむ

夏筵　明暦三、四、十五、御当座

33 333 はしちかくやゝふしなれぬくれ竹のよるのむしろに風を契りて

34 334 露はらふもりのこかけの夕すゝみ草のむしろは人もへたてす

名所月

35 451 あかしかた波ちはるかにすむ月の光にうかふあはちしま山

暮漁舟

36 839 あま人のあかしもすまも夕なきにをのかうら〳〵いつるつりふね

37 840 くれぬとてとまるみなとの夕波に一葉こきいつるあまのつり舟

寒草　万治元、後十二月廿四日公宴御当座

38 539 あさな〳〵かれゆくをのゝあさゆふにあまりてむすふ霜のさむけさ

霞遠山衣　万治二年正、十九、御会始

39 28 花のにしきひもときそへよはるのきるころもたつたの山の霞に

遠帰雁

40 0 名残あれやみをくる程もなくかりのこゑさへかすむ空に消ゆく（此歌通茂卿トアリ）

夜盧橘

41 267 風かよふこすのとくらき雨もよに花のかしめるのきのたち花

松雪

42 578 きゝなれしあらしはたえて下折のこゑたかさこの松の白雪

山旅

43 871 旅衣かさなる山もかきりあれやゝさとちかき道そみえゆく

逢増恋　万治元年十月十七日御当座

44 711 しらさりき逢みてのちの思ひ河きのふの淵を猶あさせとは

草花　同十月廿四日御月次

45 383 はへあれやまかきの露のあさな〳〵よそほひなせるはなの色〳〵

五月雨久　同二年二月十六日御当座

46 273 しはしこそかそへもみしか幾日ともしらぬなかめのさみたれの雲

七夕契　同、二、廿二、水無瀬殿御法楽

47 353 いつはりの有世をしらぬ契りとやかはらぬ秋のほし合の空

池杜若　同、二、廿五、聖廟御法楽

48
207
風ならて花そゝよめくかきつはたわけてやかよふ池のにほ鳥

恨恋　万治二、二、廿四、御月次

49
725
清書
身のとかもわれやはしらぬ思へ人にくからぬ人をなにかうらみむ

50
726
大かたはさそなうき身と思ふにもあまるつらさをうらみさらめや

梅留客　万治二、四月廿六日為頼卿三十三廻勧進

51
85
袖ことにひかるゝ風の梅かゝにちきらぬのへのまとゐをそする

閨中扇　万治二、六、廿五、聖廟御法楽

52
318
大空にやみぬる風も有明の月雪しろきねやのあふきに

53
319
風かよふ閨のあふきやこぬ秋の露よりさきにをかんとすらん

寄衣恋　同

54
704
名残あれや今はあたなる夢はかりみし夜をかへすよるの衣は

55
0
恋衣いつかあふよのうれしさを袖のなみたにつゝみかへまし

二星適逢　万治二、七夕、公宴

56
363
君か代のかすにかさねよまれにきてつきぬほし合のあまの羽衣

茅檜秋月　修学寺八景

57
448
山水のよゝすみぬへきこゝろをもかやかのきはの月はしるらむ

原上月　万治三、九月十三夜御当座

58
429
その原や有とはみえて月かけのやとるまもなきつゆのあき風

月下葛　同

59
454
とふ人もあらし吹よをさとゝをきをかのくす葉の月にうらみて

籬下荻　同、八月十五日、通茂卿勧進

60
370
秋にたへぬまかきのおきの夕風にわれからうへしやとやうかれん

見花　同、水無瀬殿御法楽

61
150
いかなれや昨日にもにすさく花はあかぬ色香のみるにそひゆく

梅香留袖　同、二月初卯、通茂卿勧進

62
83
たちよりていく木のもとに袖ふれてあゐより青きそての梅かゝ

関路鶏　万治三、六、廿八、御当座

63 816 道しあれはとりのねまたすおき出てとさゝぬ関をこゆる旅人

64 817 清書 しるしらす名残そおしき関の戸をとりのねきけはおきわかれつゝ

寒草　明暦三、五、廿七、御当座

65 538 とふ人もかれのゝ尾花をのれのみわすれぬあきの風のおもかけ

鵜川籌　万治三、五、廿八、同

66 303 うかひ舟くたすよかはのかゝり火はみる人さへに月やまたるゝ

寄山恋　同

67 619 ふしのねも猶あかすとてわか恋の山よいつくのやまにくらへむ

遠尋花　万治三、二、廿二、水無瀬殿御法楽

68 145 山さくらなをたつねみん里とをみとはすはわふるはなもこそあれ

残雪　同、二、廿五、聖廟御法楽

69 60 のとかなるみやこの山はかすみつゝのこるやとをきみねのしらゆき

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertor